東京梅檀会（双葉同窓会東京支部）役員会議事録　　**2009 年 10 月 31 日　13：30 時～15：30**

（於：信稜会館・渋谷）書記：高木成幸

議題

１．H22 年度新年総会に向けて　　２．双高東京同窓会新聞編集委員会報告

３．「還暦の会」報告　　４．その他

会長よりＨ２２年度新年総会に向け以下の指示があった。会報発送の準備作業（新聞・送付資料）を急ぎ新年総会は「東京梅檀会」の名称としてスタートさせる。既に本部より「東京梅檀会」の名称は承認を得ている、但し正式名称は福島県立双葉高等学校同窓会東京支部に変わりはなく公文書には東京梅檀会（福島県立双葉高等学校同窓会東京支部）で統一する。また、本会議場は木幡實（高 12 回）氏母校（福島大学）の信稜会館を使わせて頂くことに会長より謝意を表された。最後に 2 年満期を迎える役員改選に意見を述べられた。

議事

決まったこと（決まっていること）＆報告

１） 役員任期２年は総会終了後の３月末日までとする。

２） 会計年度は１−１２月とし次の総会で決算報告する。

３） 東京梅檀会の会則（既に現会則と整合性されたものは作成済み）で総会に於いて承認を得る。（もう一年の試行との意見が出たが限がないとの結論。但し振込先名称、登録印鑑・・の問題は出る。）

４） 還暦の会は１９回卒でまとめて行く。２０名以上の出席が期待できる。

５） 会報の最終校正を全員で確認した（記事信憑性を上げるため裏をとる等の意見が出た）

６） 中澤氏の草稿はスペースの問題で取置き次回に廻すことになった。（木幡代行が中澤氏へ説明する）

７） 編集後記に西尾氏の広告に謝意との話が出たが意見錯綜で木幡氏預かりとした。

８） 会報封書に同封する資料全点とＨＰの「会費納入のお願い」及び「バナー広告文」の校正と確認を行った。

９） 新年総会に校長および本部同窓会事務局長が修学旅行に随行するため欠席する報告があった。

１０） １０月末〆の仮会計報告があった。総会では監査を受け 1-12 月で本決算報告となる。

１１）プログラム＆役割分担（配布）は大井案をベースに行った。主な内容は以下の通り

開会の前に黙祷２０秒

司会は大井氏

校歌斉唱は菅波・志賀氏のコラボ指揮　校歌は第？？章まで

ご挨拶を瓜生康弘教頭（母校の近況報告）他は昨年と同じ

会務報告は昨年と同じ（パワーポイントで簡潔に）

１２）新年懇親会（司会：加藤さん）

乾杯の発声は最年長者（参加者名簿から、お願いは会長から）

同好会・事業部報告は以下の代表者

ゴルフ部（荒川代表）、囲碁（持田代表）、相談部（蘭代表）

みんなの広場「自然を楽しむ会、ギャラリ、コラム」（高木）

１３）アトラクション・表彰・福引他

還暦の会　学年最多出席１−３位、夫婦同伴賞

アトラクション：原田直之ご夫妻の民謡ショーと中島裕子・翔さんの箏と尺八（春の海）

全員に参加賞、ラッキー賞（福引）を考える。尚、アトラクションに２件は長いとの意見から

箏・尺八（春の海）を開会前にしてはとの意見があり、それではＢＧＭ的で失礼ではないかとの

意見もでた。最終的には幹事長一任となった。

１４）次期合同役員会はH22 年 1 月 11 日（月、祝日　13 時より）。通知は E-メールとハガキで。

会場選定は幹事長一任

出席者：鈴木会長（高 12）、西尾副会長（高 4）、蘭副会長（高 20）、冨澤監事（高 13）、市川会計幹事（高 14）、田中会計役員（高 14）、谷本会計役員（高 14）大井副幹事長（高 18）、加藤監事（26 回）、藁谷ＨＰ管理責任者（高 44）、木幡編集部長代理（高 12）、谷津田還暦の会世話役副代表（高 19）、高木成幸（高 13）計 13 名

以上